

(別添資料1)

事業所名		指定通所支援　こあらっこ(児童発達支援)				支援プログラム（参考様式）		作成日	R6	年	12月	3日
法人（事業所）理念		地域貢献、社会貢献を念頭に置き、子どもさん一人ひとりの特性を見極めながら、将来を見通した展望のある支援を心掛けるとともに、子どもさんと保護者さんに寄り添い温かい支援を行うことを理念とします。										
支援方針		的確なアセスメントに基づき、子どもさんの特性とその社会福祉環境全般を把握したうえで、5領域を考慮した個別支援計画を構築し、精神面、認知機能や運動機能、言語発達面においての専門的な発達支援を行う。 保育士、心理士、言語聴覚士、作業療法士などの医療的な専門職が子どもの障害特性に応じて個別で専門的な支援を提供していく。										
営業時間			11時	0分	から	18時	00分	送迎実施の有無	あり　　なし			
		支　援　内　容										
本人支援	健康・生活	①食事、排泄、着脱、歯磨きなどの視覚情報の提示(例：イラスト等)など子どもの障害特性に合わせた指導を実践し基本的な生活習慣をスモールステップで獲得できるようサポートしていきます。 ②健康状態の常なるチェックと必要な対応を行っていきます。その際、意思表示が困難である子どもの特性及び発達の過程に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行います。利用中に体調の変化がある場合には適切な対処(例：医療機関への受診、保護者への状況の報告等)を行います。 ③特性に配慮し時間や空間を本児にわかりやすく構造化していきます。 ④スケジュールや感情、行動などさまざまな情報を視覚化し、先を見通す力や気持ち、行動の切り替え力を身に付けます。										
	運動・感覚	①サーキットや粗大運動、運動遊びの中で姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の強化などに関する支援内容を提供していきます。 （書字能力の向上、姿勢の改善、衝動のコントロールを身に付ける） ②日常的な動作に必要な微細運動スキルの獲得に取り組みます。 ③感覚統合と感覚運動機能の発達を支援していきます。（前庭感覚、触覚、固有感覚等を統合させた学習能力、抽象的思考、集中力、自己肯定感、自己抑制の発達を促進）										
	認知・行動	①マッチング、生活の中での物事の知識と理解、抽象的概念形成、記憶、思考力を養う課題を行い認知面の向上と行動の習得を行います。 ②読み書き数の概念や操作などの基本的な学習の基礎スキルを身に付けます。 ③認知行動療法や（CBT）応用行動分析（ABA）を用いたプログラムを行い自分自身の行動や思考の特徴を見つける事に加え行動や思考が起きる前後の対処方法について考え日常生活に反映させていけるような支援をしていきます。										
	言語コミュニケーション	①絵カード（フラッシュカード）などを活用し、具体的な事物と言葉の意味を結び付け、語彙力の向上や自発的な発声を促します。 ②言語理解、表現力、抽象的言語概念、一般的知識などの課題やソーシャルスキルトレーニングを通じて言語の形成と活用やコミュニケーション手段の選択を身に付けます。 ③具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける事により、体系的な言語の習得を促す支援プログラムを立案し実践していきます。 ④言語聴覚士による言語機能面（構音、吃音）の訓練を行い支援していきます。										
	人間関係社会性	①集団生活が苦手なお子様にもルールを工夫することで段階的に集団あそびやゲームにも参加できるように支援します。 ②勝ち負けのある遊びを行うことで、ルールを理解する力、状況を理解する力、他人と協調する力などを養います。 ③絵カードやワークシート、工作、ゲーム、遊び、運動を通して他児との適切な関わり方や状況に応じた行動の振る舞いについて考え自分自身の力を身に付けていきます。 ④感覚的な遊び、見立て、ごっこ遊びなどの象徴遊びへと発展させ想像力を養っていきます。										
家族支援		本人の思いや特性、現状などを保護者と情報共有を図りながら円滑な意思疎通が行えるように支援をしていきます。					移行支援		本人の特性を踏まえて一貫した支援を行う為情報共有や支援内容の連携・取り組みを行います。			
地域支援・地域連携		関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常的な生活や支援に活用するための具体策を提案していきます。					職員の質の向上		法人内や事業所での研修を行いながら職員の質の向上を図っていきます。			
主な行事等		日曜日や祝日にイベントの開催や季節に応じた制作活動、交通安全等の受講などを行います。										